

○9月モニターレポート

日時:2012年9月23日(日) 14:00~15:30

天気:曇り

区間:矢作川右岸 38.0km~39.0km

9月のレポートです。よろしくお願ひします。

今回レポートしました区間は、川沿いに数キロメートルの竹林が連なるところで、そのため、多くの生物を目にする機会に恵まれます。

昆虫類はもちろんのこと、爬虫類や鳥類も多く生存していて、数や種類は少ないのですが哺乳類のイタチらしき姿も見受けられました。(野生かどうかはわかりませんが)

そんな中、特にこの区間に目立つ生物がいます。

それは、サギです。

竹林の緑色をバックに白い姿が多く点在しており、小さいですがひとつの集団繁殖地(コロニー)を形成しています。

今回、観察できたサギの数はおよそ30羽ほどでしたが、時折、その大きな翼を広げ、独特なS字の姿勢で飛ぶ勇姿はなかなかのものです。

対岸からの観察であったために、特定の種類に見分けることはできませんでしたが、日本に生息するサギ類のうち、シラサギと呼ばれているダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギの4種とゴイサギ、アオサギの計6種がサギ山と呼ばれるコロニーを形成するという事なので、この中のいずれかの種類のサギということになると思います。

また機会があればもっと近くで観察したいと思います。



では、ここでサギについて。

コウノトリ目サギ科に属する鳥を総称してサギ(鷺)と呼んでいます。

- サギ科の鳥は世界では65種が知られ、そのうち日本では19種が記録されていますが、小笠原諸島に生息していたハシブトゴイは既に絶滅してしまいました。
- 水辺を主なすみかとする水鳥で、長くちばしと、長い脚を持っています。また、ダイサギやコサギなど首の長い種類もいます。
- 飛ぶときに首をS字に折り曲げるのが他の鳥にはない特徴です。
- 多く種類は雌雄同色です。
- 繁殖期になると頭や胸、背中に美しい飾り羽を持つものもいます。
- 魚やカエル、甲殻類などを主なエサとしていますが、アマサギのように昆虫も主なエサしている種類もいます。
- サギ類の中には、竹林、雑木林、マツ林等に数種類のサギが集まって集団繁殖地をつくるものもいます。



身近に見ることができる矢作川が育む野生の生き物たち。
そんな彼らの生きる姿から、川は決して人のためだけにあるのではないということを教えます。
自然を人工的に変えることができる存在として、その恩恵に授かるなら、その分責任は大きく重いもの
になります。
私たち人も含めて、全ての生物たちが安全に安心して住むことができるようにすること、そのために私たち
ひとりひとりができることは多くあると思います。
(不法投棄、水質汚染、環境整備)
姿かたち、水のきれいな川としての矢作川を切に望みます。

以上、報告申し上げます。